

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100863		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム坂本		
所在地	大津市下阪本6丁目19-1		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりと寄り添う時間を持ち、笑い声・笑顔を引き出せるケアを心がけている。
家族とも連絡を密にし、家族・職員皆で利用者を支えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570100863&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームとしてどのようなホームにしたいかを職員全員で話し合い、利用者一人ひとりの個性を大切にしていきたいという思いを込めて「そのひとらしくを大切に笑顔でやさしく寄り添うケアを目指します。」という理念が作られました。夜勤帯を活かして効率よく業務を行うことで、掃除や洗濯など日常生活を何事も一緒に時間をかけて行えるようになり、共に寄り添い暮らす中で利用者の思いをこれまで以上に聞くことができ、個々のケアに繋がっています。また、家族の面会時にはホームでゆっくりと過ごしてもらえるようにコミュニケーションを図り、一緒に食事を摂ってもらえることもあり意向や意見を聞けるように配慮しています。利用者の重度化が見られ、本人や家族、医師等と十分な話し合いを何度も重ねることで看取りの体制を整えることができています。十分なコミュニケーションをとり、チームケアを実践しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームがどこを目指し進んでいくのか職員全員で新たに理念を構築しました。「その人らしくを大切に笑顔でやさしく寄り添うケアを目指します。」	法人の理念を基に、グループホームとしてどのようなホームにしたいかを職員全員で話し合い、一人ひとりの個性を大切にしていきたいという思いを込めて理念が作られました。訪問時に誰もが目にするホームの階段の踊り場に掲示されています。また、個々の利用者の暮らしに合わせ寄り添う介護の実践に努めています。	地域と繋がりながら生活していくことについても課題とされ取り組まれていることから、更に一歩進んで、理念にその思いを加えられたり、実践につなげる取組なども期待されます
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や買い物時に積極的に挨拶を交わし、交流を深めています。利用者の重症化の中ボランティアの来訪を盛んに行い、地域交流をしています。	地域の地藏盆等の行事への参加や地域のボランティアに多く来訪してもらい、地域の方々との交流を図っています。今後、小学校や幼稚園などの子ども達との交流や地域の認知症の相談窓口になるなど、交流したり地域の一員としての役割も担っていきたく考えています。	地域の一員としての地域との関わりや小学校や幼稚園等との交流を課題と認識されており、今後運営推進会議等で議題にされたり、交流に向けての働きかけをされることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターを地域の人向けに3月に開催する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、自治会連合会長、自治会長、地域代表、社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。ホームの状況や行事報告が行われ、活発な意見交換の場となっています。会議で出た意見や要望等をサービスの向上に活かしています	運営推進会議は、家族や自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催されています。入居者の状況や行事の報告を行ったり、参加者から地域の行事を教えよう等、相互の意見交換を行っています。看取りを経験し、その家族がその時の思いや良かったことを話され、実際のケアを伝える場となりました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、地域包括支援センターの職員と実情を報告し、相談しています。	法人の担当者が市役所に行き、家族からの相談を受けて市の見解を聞いたり、ホームからの報告を行ったりしています。また、市から認知症サポーター研修の開催についての依頼があり、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	統括に相談	身体拘束については、法人の開催する研修を受講し、受講できなかった職員には伝達研修を行い全職員に伝わるよう取り組んでいます。2階に位置する当該ホームは入り口が仕切られておらず、直接階段となっており危険な場合もあるため衝立を置いています。利用者が外に出たい様子があれば一緒に出かけ、自由に暮らせるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けてきた職員が他職員に伝達研修を行い、虐待がない様お互いに声掛けをしながら防止している。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けてきた職員が他職員に伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又解除時は十分な説明を行い、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は寄り添いケアの時間を増やし本人の思いを聞き出しています。家族は意見がしやすい雰囲気をつくり、面会時や運営推進会議の時に意見や希望を出してもらい、出された意見や希望に対しては会議等で検討し、直接家族へ連絡するようにしています。	利用者と一緒に掃除や洗濯などを行う中で、個々の思いを聞くことができるように努めています。家族とは面会時にゆっくりと過ごせるように配慮し、職員が日頃の様子を伝え、希望や意見を聞いています。また、年に2回満足度アンケートを行っており、出された意見は会議で検討し対応状況を書面にして家族に伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティングを行い、活発な意見交換をしています。	職員全員が参加するミーティングを月に1回行い、意見を出す人が偏らないように多くの職員が意見を言えるように進行しています。詳細なことまで話し合っ決めてことでケアが統一できるように取り組んでいます。必要に応じて職員間で出された意見を法人内で行われる会議で話し合われることもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括に相談		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	統括に相談		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	統括に相談		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾け、不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	蜜に連絡をとり、面会時には家族の話に耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度も本人・家族と話し合い、本当に必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ない事を見極め、本人のやる気を引き出す支援を行いながら、暮らしを共にする者同志の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加を呼びかけ、些細な事でも家族に報告しながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度化に伴いこちらから出向く事が出来ない為、ホームへ来訪してもらい、関係が途切れないよう努めています。	家族や友人の面会時にはゆっくりと過ごすことができるように配慮したり、年賀状のやり取りができるように一緒に書くなどの支援をしています。また、以前から行き馴れたスーパーに買い物に行ったり、住み慣れた場所に散歩で出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が上手く関係作りが出来るよう職員がクッションになる事で、利用者同志の良い関係作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、サービス終了した利用者に対して、お見舞いに行ったり、電話にて様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、アセスメントを行い、本人の思いに沿ったケアを提供している。	家族に生活歴や以前から好まれることなどをセンター方式のアセスメント用紙に記入してもらっています。また職員の日々の関わりの中でも、利用者の様子や表情を見て情報を追加し、カンファレンスで検討し利用者の思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ家族、本人から今までの生活歴などを聞き取り、センター方式に落とし込み、情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や口頭による申し送りを密にし、一人一人の現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思いを聞いた上で、カンファレンスを行い、計画作成を行っている。	本人や家族が記入する「ご希望記入用紙」やアセスメントをもとにカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成しています。カンファレンスに参加できない職員にも必ず意見をもらい、全員で作成されています。3か月ごとに評価を行い、必要があれば見直し、変化がない場合にも6か月ごとに再アセスメントを行い更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノートを活用し、職員間の情報共有を行い、カンファレンスに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と相談しながら、柔軟に対応している。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人と顔見知りになる事で、本人が安全に散歩や買い物をしながら豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族、主治医と蜜に連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援しています。	入居時に以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明し、かかりつけ医を決めています。ホームの下階にある医院が協力医であり、2週間に1回の受診や状況によっては往診があり、週に1回訪問看護を受け、日々の健康管理をしています。夜間に対応してもらえる協力病院もあり、協力体制が築かれています。また、必要に応じて訪問歯科も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪看時、情報を提供し、必要に応じ受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携を通して、病院関係者と情報を交換し、お見舞いなどに行き、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医と蜜に連携をとり、何度も話し合いを重ねて本人、家族の気持ちを大切にしながら、方針を決めています。職員も終末期の対応について、勉強会や意見交換を行い、質の高いケアを提供しています。	入居時にホームの看取りの指針を説明しています。重度化されてきた利用者もあり、状況の変化があれば、その都度家族や医師、職員等と繰り返し話し合い方針を共有しています。医師や家族とも協力しながら、看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の対応や応急手当について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回様々な災害を想定した訓練を実施しています。運営推進会議で災害訓練の参加を呼びかけている。	夜間想定した避難訓練や防災に関する訓練を2か月に1回行っています。年に2回は消防署の指導のもと避難訓練を行っています。地域の人には運営推進会議を通じて働き掛けています。	運営推進会議には地域の方々の参加が多くみられており、避難訓練の状況を見られるように依頼したり、協力体制について具体的に話し合われてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を重ね質の向上を図っています。情報を共有し利用者が混乱しない様個人個人に合わせた声かけの統一をしています。	接遇やプライバシー保護に関する研修や勉強会を行っています。居室に伺う時にはノックをする等基本的な事から、会話時の声の大きさやトーンなどにも配慮しています。個々の利用者に合わせて、方言などのわかりやすい言葉遣いをすることもあります。不適切な対応があれば、その都度管理者が注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択が出来るような声掛けを行い、本人の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談しながら、その日の服を決めたり、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に合わせて食事の準備・片付けを職員と共に行っている。	週に2回食材を注文し配達してもらい、その日の冷蔵庫の中を見て、好みや体調を考慮して献立を決めています。調理や配膳、後片付けなど利用者のできることに携わってもらっています。職員も同じ食卓に着き会話をしながら食事の時間を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを活用し、必要に応じて、水分量のチェックを行ったり、捕食を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェックシートを活用し、本人の能力を活かした口腔ケアをしている。		

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し個々に合わせた排泄パターンを確立してトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。	個々の排泄のパターンを把握し、利用者にとって最適な環境を整えることで、失敗が減り成功体験を増やしていく支援を心がけ、自立に向けての支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	2日に1回程度朝食にヨーグルトを提供し、毎朝ラジオ体操をして、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本人の希望により、入浴を行っています。夜間入浴の導入により今までの生活パターンを保持できるよう努めています。	毎日午後から入浴できるように準備しています。入浴の日にちを決めていますが、その時の希望に応じて対応しています。拒否傾向の方にも声のかけ方や介助の方法で拒否がなくなった方もいます。また、夜間入浴により安眠が得られる利用者には、毎日就寝前に入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて夜間入浴なども導入する事により、気持ちよく眠れるように支援している。日中も適宜休憩をしながら過してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明を職員全員が読み、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、唄おう会、外出、散歩など利用者の趣味や楽しみ、気晴らしなど張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームが2階にあり、エレベーターがない為、車椅子の利用者の外出は困難になっているが、午後より散歩の時間を作る事により、個別外出を行っています。	利用者が重度化し階段の昇降が困難なため外出が困難な方もいますが、できるだけ出かける習慣が持てるように努めています。季節の花見や紅葉狩り、神社へお参りなどに出かけています。また、家族の協力を得て毎週末自宅へ外出される方もいます。	

洛和グループホーム坂本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時の支払いや、小銭などは本人で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より依頼があった際は、適宜電話などで連絡をとってもらえる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者と共に掃除を行い、清潔に保つ事や季節の花や季語を使った書道を廊下に貼ったりして居心地よく過ごせる工夫をしています。	リビングでは気のあった利用者同士が居心地良く過ごせるようにテーブルや椅子の配置に配慮しています。廊下に椅子を置いたり、和室にはこたつを置き思い思いの場所で過ごされています。ホームには広い多目的ルームがあり、利用者も自由に行き来され洗濯物を干したり外を眺めるなど日常的に使われたり、ボランティアの来訪時等の行事の際にも活用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は各自居室や多目的室など自由に行き来できる環境にあり、利用者同士も居室やリビング・多目的室など思い思いの場所で交流している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人が長年使用した馴染みの物を置くことにより本人が居心地よく過ごせる工夫をしています。	全室和室であり、布団で休む方やフロアカーペットを敷きベッドを置いている方もおり、個々の生活に合わせて家具を配置しています。使い慣れた鏡台や椅子、テーブルなどを置いたり、写真や観葉植物などを飾り安心して過ごせるような居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所以が明確にわかるように表示している。		